

2023-24 年冬の冬道での転倒事故について (その 1) -札幌市における自己転倒による救急搬送者数の整理と分析-

○永田泰浩¹, 金田安弘¹, 富田真未¹

1. はじめに

ウインターライフ推進協議会の事務局を務める当センターでは、これまで、札幌市消防局との連携により、札幌市における冬道での転倒による救急搬送者について整理、分析を行い、転倒予防のための啓発活動を行ってきた。特にウインターライフ推進協議会運営している web サイト「転ばないコツおしえます。～札幌発！冬みちを安全・快適に歩くための総合情報サイト」は、多くの方からのアクセスをいただき、その効果もあってか、札幌市における冬期の救急搬送者数は 2012 年冬期 (以後“12 月～3 月”を冬期とする) の 1317 人をピークに、それ以降は最多記録の更新はなかった。しかし、2023 年度冬期は、自己転倒による救急搬送者数が、11 月～3 月で 1886 人、12 月～3 月で 1747 人と過去最多の記録を一気に塗り替えた。本発表では、これまでの蓄積データとの比較を行い、2023 年度冬期の転倒による救急搬送の特徴を把握するとともに、過去最多となった要因を推測した。

2. 分析データ

分析に用いたデータは、札幌市消防局が収集した 1996 年度から 2023 年度まで 28 冬期の救急搬送データのうち、「雪道の自己転倒」に分類されたデータである。救急搬送データには、救急搬送の発生日月と時刻、救急車の到着場所、救急搬送者の年齢、性別、けがの程度の情報が含まれている。

3. 雪道での自己転倒による救急搬送者数の整理

(1) 月別および日別の比較

2023 年度冬期の月別の救急搬送者数は、1 月が 518 人、2 月が 492 人であり、図 1 のように、過去 28 冬期で最多を記録した。12 月は 519 人であり、2014 年度の 540 人に次いで 2 番目に多かった。日別の救急搬送者については、12 月 21 日 (52 人) が過去 28 冬期で 8 番目の多発日、12 月 19 日、12 月 20 日がともに 49 人で、過去 9 番目の多発日となっていた。

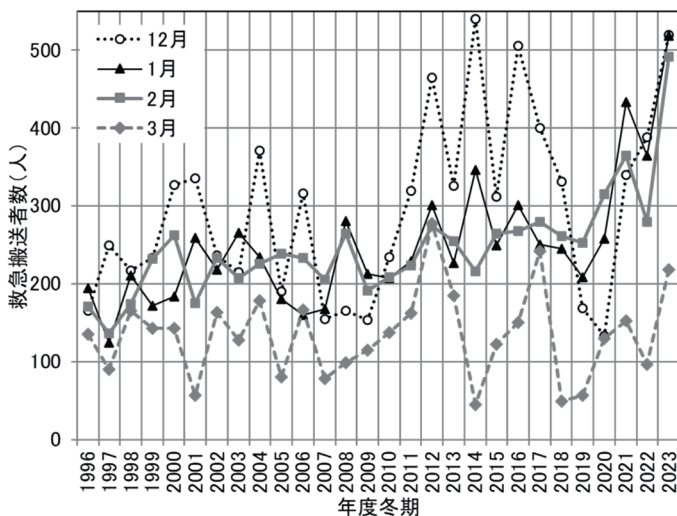


図 1 過去 28 冬期の月別救急搬送者数(1996～2023 年度)

(2) 区別の比較

札幌市内 10 区の区別の比較を行った。過去 28 冬期を通じて、中央区の救急搬送者が圧倒的に多かった。2023 年度冬期については、白石区を除く全区で、過去最多を記録していた。

(3) 年齢層別の比較

救急搬送者数は年齢層の人口による影響を受けるため、人口 10 万人の救急搬送者数で比較を行った。例年と同様に、加齢とともに救急搬送者が増加する傾向が顕著であった。

(4) 男女別の比較

人口の影響もあり、救急搬送者数は女性の方が多いのは例年通りの傾向であったが、2023 年度は人口 10 万人あたりの搬送者数が男性に比べて女性がやや多い傾向がみられた。

4. 救急搬送者が急増した要因について

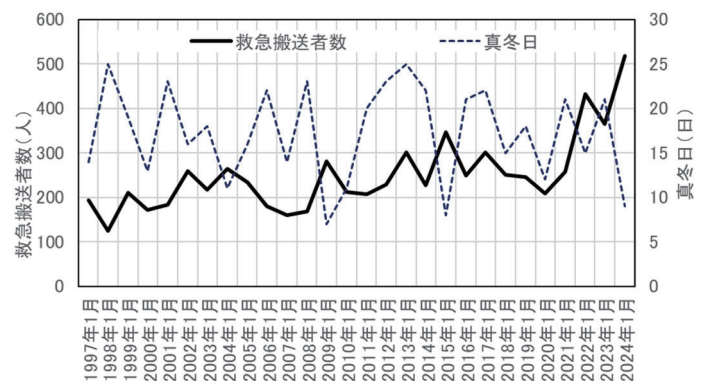
救急搬送者数急増の要因を把握するため、増加が顕著な 12 月、1 月、2 月の救急搬送の発生状況と気象条件を比較した。

(1) 2023 年 12 月

前述のように 19 日、20 日、21 日と 3 日連続で、過去 28 冬期の日救急搬送者数の多発日ワースト 10 を記録した。気象条件を確認すると、17 日の未明から午前中にかけてみぞれや湿った雪が降り、午後から急激に気温が低下していた。その後、好天で気温の低い日が続く、救急搬送者が多発したと考えられる。

(2) 2024 年 1 月

2024 年 1 月は真冬日が少なかった。真冬日は 9 日であり、2009 年の 7 日、2015 年の 8 日に次いで少なかった。図 2 には、1 月の救急搬送者数と 1 月の真冬日の日数を示したが、真冬日の多い 1 月は、救急搬送者数がやや増加する傾向がみられた。



(3) 2024 年 2 月

2024 年 2 月は、最高気温が 10℃ を上回る日が 2 回あるなど、2 月と思えないほど暖かい日があった。1 月と同様に、真冬日との関係を確認したが、1 月のような傾向は確認できなかった。

謝辞

整理、分析にあたり、救急搬送者データをご提供いただいた札幌市消防局様に深く御礼を申し上げます。

¹ 北海道開発技術センター 地域政策研究所